

# 新たな飛躍に向けて

ふれあいランド岩手 館長

福澤 淳 一

「ふれあいランド岩手」は、平成6年12月の開館から20年という長い年月を経てきました。この間、大きな事故もなく、多くの県民の皆様にご利用され、無事20周年の節目を迎えることができたことに心から感謝しています。

また、この記念すべき年に館長という要職に任じられたことへの感謝の気持ちと同時に、今後の施設運営への責任の重さに身が引き締まる思いでいます。

この20年を顧みますと、年間利用者数は、開館当初の18万人台から近年は24万人台と年々増加傾向にあり、利用者の内訳も、障がい者や高齢者をはじめ、学生や幼児、一般の方々など幅広く利用されてきました。

まさに利用者や地域の皆様、多くの関係者の皆様のご理解とご協力のもとに、岩手県における福祉交流施設としての使命を少なからず果たすことができたのではないかと自負しています。

今後も、これまで培ってきた安全・安心な施設運営や魅力ある事業運営への経験やノウハウを最大限に生かしながら、一層多くの県民の皆様にご利用いただくように努めていきたいと思いを新たにしています。

10年後、20年後の「ふれあいランド岩手」のあるべき姿を見据え、利用者や県民の声に耳を傾けながら利用者起点の施設運営・事業運営を基本として、その需要や社会的動向を的確に把握し、高齢化の進展に伴う障がい者・高齢者の自立支援や介護予防、生きがいづくりをはじめ、障がい者スポーツの振興や沿岸地域への出前事業など、取組の一層の充実拡大に努めるとともに、災害支援拠点施設としての役割などもしっかりと果たしていきたいと考えています。

また、利用者の皆様にとって、常に満足度の高いサービスの提供を継続的に行えるよう、職員一丸となり、自信と誇りを持って、さらなる専門性やおもてなしの向上にも努めていきます。

利用者や関係者の皆様と共に、新たな飛躍に向けて、「ふれあいランド岩手」のあるべき姿を実現していくことができれば幸いです。